

目指す学校像	安心・安全・信頼を基盤とする地域と連携した潤いある教育活動を通して、生徒・保護者・教職員が共に充実感を楽しみ、落ち着きと豊かさを実感できる学校
重点目標	1 デジタルコンテンツの有効活用を図り、探究的な学びの深化を図る教育活動を実践する。 2 生命と人権の尊重を重視し、自主的な活動を中心とした体験活動を通して自尊感情・自己存在感を高める。 3 コミュニティ・スクールの推進に合わせた保護者・地域との理念の共有と連携・行動を図る。 4 社会性の育成を指導の基軸に、協働して教育活動を進める教職員研修の充実を図る。

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価	
年度目標							実施日令和6年2月15日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全国学力学習状況調査では、国語と数学ともに全国平均正答率を上回っている。また、市平均とほぼ同程度の正答率である。 ○学校評価アンケートでは、「授業内容の理解」に関する肯定的な生徒回答が94.4%である。 ○ICTを活用した学びは行われており、市平均と比べかなり高い。 ○読書における貸し出し数は、前年比を上回り、増加傾向であるが、貸し出し数を見ると二極化している。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○家庭で学習できない生徒がいて、学習の計画の立て方や励ましが必要である。 ○学習内容が理解できず、下位層については学習意欲も低下している生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別最適な学びの推進と、探究的な学びに合わせた情報端末の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ①「よい授業アンケート」・「学びの指標」結果をもとに、指導法・指導内容の検討を行い、授業改善を行う。 ②本校のSTEAM教育のカリキュラムの確立、および検証を行う。 ③全国学テ・市学習状況調査の結果を個人でとらえ、生徒自らの学習状況を把握・改善を図る。 ④スタディサプリを家庭学習や授業に使い、個別学習の充実を図る。 ⑤学級活動による、計画的な学習習慣の定着化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校評価「生徒の実態に合わせた指導法改善」ができたか。 ②STEAMSTIMEが計画通りに進められたか。 ③⑤生徒が自己の学習法について考え、課題が明確にできたか。 ④スタディサプリを個人の学習の一部として活用できたか。 ⑤「予習や復習の取り組み」が昨年を上回れたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校評価では、生徒の「授業が分かりやすく、楽しい」は91.7%。教職員の学校「生徒の実態に合わせて授業・指導法の改善ができていく」は95.8%。 ②STEAMSTIMEは年間指導計画通りに実施。Micro Bitを活用した応用的なプログラミング教育を実施できた。 ③全国学テの結果を分析させ、振り返らせる時間を全クラスで確保した。 ④生徒の学校評価「予習や復習の取り組み」の肯定的評価は、前年度比3.1%上昇し、75.3%。4年連続上昇。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ①学校評価により、本校の「授業の約束五か条」の保護者への浸透率は、前年度より0.7%上昇したが、60.6%にとどまっている。機会を捉え、保護者に伝えていきたい。 ②STEAMSTIMEを防災教育と関連付けた学校研究計画を作成し、次年度に実施予定。 ④「予習や復習の取り組み」の肯定的評価は4年間で18.0%向上したが、さらなる向上を目指した取り組みを推進していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で勝負する教員本来の姿に安心した。デジタルコンテンツの活用が充実し、生徒が探究心を強め、目標に近づいた。生徒が授業がわかりやすいと感じる割合も高く、次年度の課題と改善策も具体的に今後の学力向上につながるかと期待できる。 ・授業5か条の浸透のため、小中連携を図る方法もある。 ・家庭とも連携して予習・復習が充実するよう働きかけてほしい。ICTを活用し、小6への春休みの課題を出してもよい。 ・生徒が欲しいと思う本を増やしてあげたい。
2	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全体的に落ち着き、学校評価における「生徒の学校生活に対する充実度」は高い。しかしながら、多様な悩みを抱えている生徒もいて、一人ひとりの状況を的確に把握し、適切なタイミングで組織的な相談・支援が求められる。 ○昨年度の施設・設備の不具合等が原因と考えられる事故はなかった。全体的には、校内の美化・安全への意識も高い。昨年は、登下校のマナー面について数件の連絡が寄せられた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍によるストレスも残り、「心と生活のアンケート」でも、不安を抱えている生徒が2割程度いることから、自尊感情が高まる活動の推進が求められる。 ○生徒自らが有用性を感じ、自らの安全性を高める力を育成することが求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりへの細やかな生徒支援・相談体制の充実と、自己肯定感・存在感を高める教育活動の工夫 ・安全で健康な生活を求める生徒の育成 ・教育環境の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ①教育ボランティアの積極的な活用を通して、人との関わりに学ぶ教育活動を推進する。 ②生徒自らが主体となる生徒会活動や行事の取り組みによって、自己肯定感・存在感が高まる活動を推進する。 ③生徒指導・教育相談に係る委員会で生徒の状況を細やかに把握し、組織的に支援、相談を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校自己評価「教育相談の充実」に係る評価項目で、生徒・保護者から肯定的な回答8割以上を継続できたか。 ②生徒の学校評価「学校生活を楽しく送っていますか」が7割を越えたか。 ③学校評価による、生徒回答の「学校教育目標の達成度」が8割以上となったか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校評価「教育相談の充実」で肯定的評価は、生徒が96.1%、保護者が93.0%。関係機関との連携を密に行なった。 ②生徒の学校評価「学校生活を楽しく送っていますか」で肯定的評価は、96.7%で、前年度比0.8%上昇。 ③学校評価「学校教育目標の達成度」で肯定的評価は、生徒は90.9%、保護者は96.7%、教職員は100%。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ①学校評価「教育相談の充実」で、肯定的評価は、高水準を維持してはいるが、前年度比で、生徒が-0.9%、保護者が-0.7%であった。引き続き教育相談体制の充実をはかっていきたい。 ③生徒に達成感・成就感を味わわせる機会を増やし、生徒の「学校教育目標の達成度」の向上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安心安全な学校に関する評価が高く、教育相談体制も充実している。生徒の個々の感情を教職員はよく把握している。 ・各項目における数値が上昇した。生命の支え合いを学ぶ授業等の健康・安全指導や、学校行事を通しての体験活動が効果を上げており、生徒の自尊感情や自己存在感の向上を感じる。 ・いじめ対策委員会等を通じて、生徒が自ら生命と人権の大切さを理解しつつある。 ・未来くるワークや夏休み中学生ボランティア等で、日頃の教育活動の成果を感じた。
3	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校運営協議会の協議に基づき、地域・学校が連携し『輝く瞳を持った子ども』の育成、「あいさつができる子」を目指し『挨拶』を核に教育活動を進めることが共有されている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ポストコロナの視点から、目指す子ども像に向けて学校・家庭・地域での具体的な取組を明確にしていくことと、発信していくこと、さらには実際に具現化して取り組んでいくことが求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・取組の具現化に向けた、子どもの様子の公開と発信 ・小中連携の取組や、地域・家庭・学校連携の行動 	<ul style="list-style-type: none"> ①本校HPで学校運営協議会やSSNの情報を発信する ②保護者・地域に対し、積極的な学校公開を行い、教育活動や生徒の成長に関わる関心・興味の向上を図る。 ③生徒が地域行事に積極的に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校運営協議会の活動内容や、SSNとの取り組みが、伝えられているか。 ①②学校自己評価「学校情報の伝達」について、保護者から肯定的な回答が8割以上であるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①②本校HPで学校運営協議会やSSNの取り組みを伝えるとともに「学校運営協議会会報」を校内に掲示した。 ③八王子公園でのボランティア清掃を実施した。青少年育成会や地域と連携し、2回とも100名以上の生徒が参加した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ①②保護者の学校評価「学校情報の伝達」は、前年度比2.8%増の97.7%だった。カラーコピー機の導入による影響もあるため、次年度以降は、紙面の内容をさらに充実させ、開かれた学校づくりを推進したい。 ①②学校運営協議会を「つぼみの日」と同時開催し、児童と生徒が交流する様子を見学していただいた。小中合同避難訓練・引渡し訓練を実施した。さらに小中の連携を深める手立てを検討中である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会の位置づけや活用が効果的に行われ、各委員に我が町の学校・生徒という意識が高い。 ・教職員と生徒・保護者・地域との連携ができ、公園清掃ボランティア等、地域と一体となった活動を行えた。 ・生徒の頑張る姿や学校運営協議会での活動状況を知ってもらい、共通行動をとれる方を増やして協働し、住民総意の学校を目指したい。
4	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業におけるICT活用は市内平均を上回る。また、エバンジェリストを中心に授業活用や業務削減に合わせた研修を重ねてきた。 ○ICTの効果的な活用に向けた研究推進委員会を継続することで、DX推進・向上に関する研修を行っている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習指導において、教職員間でICTの活用率の差がみられる。 ○校務分掌による業務量の差があり、負担感が教職員にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的な学習指導に向けた取組 ・教育力の要である「教職員力」の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ①「個別最適な学び」が高まる授業に向け、ICTを効果的に活用した授業について取り組む。 ②校内の研修、個人の研鑽を推進し、指導技術の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①②研修を通して、学校自己評価「校内研修について」肯定的な回答が8割を越えられたか。 ①②昨年度に比較して、業務量、残業時間の削減が図れたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①②全教職員が、授業におけるICT活用をテーマにした公開授業を指導訪問の際に実施した。ICT研修(授業での活用、プログラミング教育、スクール・ダッシュボード、Canva等)を年5回実施した。 ①日報のデジタル化により、業務の効率化を達成した。 ②年度途中からアシスタント・ティーチャーを導入し、「個別最適な学び」に対応する教職員の負担軽減がはかれた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ②授業におけるICT活用は、日常的に行われるようになった。スクール・ダッシュボードの本格導入に伴い、授業だけでなく生徒指導や教育相談へのさらなるICT活用を推進していきたい。 ①②全教職員の時間外在校時間の合計は、9～11月の平均が4～6月の平均より303時間減少した。一方、1月に時間外在校時間が45時間を超えた教職員は4名おり、さらなる働き方改革推進の必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年5回のICT研修が効果を高め、生徒に還元されている。ICTの活用を軸に指導法等を研修し、慣習にとらわれず取り組んでほしい。 ・教職員の自己啓発が良く実施されている。更なる高みを目指す実行力に期待している。 ・仕事の満足度が高められる工夫も必要である。ICT活用で働き方改革を進めてほしい。